

「(仮称)丘珠縄文遺跡公園」整備基本計画【概要版①】

第1章 事業の目的

- 歴史や文化を尊重し、環境に配慮した生活空間を希求する社会的要請
- 「埋蔵文化財行政の推進による地域づくり・ひとづくり」という新たな方向性（文化庁）
- 札幌の特色ある文化財を積極的に活用していく方針（札幌市）

サッポロさとらんど内に保存されている縄文文化の遺跡（H508遺跡：通称「丘珠縄文遺跡」）を活用して、市内初の遺跡公園を整備する

札幌の縄文文化の魅力を発信するために、遺跡を適切に保存し、地域の歴史資源・文化資源・教育資源として、その価値を将来へと伝えていく

第2章 事業の位置付けと計画策定の経緯

まちづくりの長期計画「札幌市まちづくり戦略ビジョン」（平成25～34年度）

中期実施計画「第3次札幌新まちづくり計画」（平成23～26年度）

政策目標5「市民が創る自治と文化の街」
重点課題2「多彩な文化芸術とスポーツを楽しむ健康づくりを推進するまちづくり」
施策「市民が多彩な文化芸術に親しむとともに、**「(仮称)古代の里」の整備**
自ら作り上げる文化活動の振興」

「(仮称)丘珠縄文遺跡公園」整備基本構想（平成26年8月策定）

「(仮称)丘珠縄文遺跡公園」整備基本計画

第3章 周辺地域の環境

1 札幌の縄文遺跡

札幌市内では、これまでの調査で500カ所以上の遺跡が発見されています。そのうち265カ所の遺跡で、縄文文化の早期から晩期にかけての遺構や遺物が発見されています。縄文遺跡は、標高の高い東部の台地や丘陵地に多く分布します。

2 遺跡の位置と周辺の環境

(1) 地理的環境

丘珠縄文遺跡：札幌市の北部に広がる沖積平野に立地。
縄文晩期の旧地表面の標高は3m前後と、低い土地に残された遺跡。

(2) 歴史的環境

北海道には、25000年前頃には北東アジアや東アジアから人々が渡来。
15000年前頃からはじまる気候の温暖化に伴い、北海道も本州と同じように、狩猟・漁撈・採集を生業とし竪穴住居で生活する縄文文化へと移り変わります。

(3) 社会的環境

サッポロさとらんど：「人と農業・自然とのふれあい」、「都市と農業の共存」をテーマとする農業体験交流施設。
サッポロさとらんど周辺には、モエシ沼公園をはじめとして、丘珠緑地、丘珠空港緑地、札幌コミュニティドーム「つどーむ」など、文化施設や緑地が多く整備されています。

第4章 丘珠縄文遺跡の概要

- 平成4・5年に実施した遺跡の有無を調べる予備的な調査（試掘調査）で、市内有数の広がりを持つ縄文文化の遺跡であることが明らかに
- ▶ 盛土されて地下に保存（平成5年～）
- ▶ 平成25・26年度に、遺跡公園の整備に向けて、遺跡の具体的な内容を把握するための確認調査を実施

【遺跡の特徴】市内の他の縄文文化の遺跡との比較に基づき丘珠縄文遺跡の特徴を4つのキーワードに整理

「広い」 市内最大級の約25,000㎡の広さを有する縄文晩期(約2300年前)の遺跡

「低い」 市内では数少ない沖積平野の低地部に立地する縄文遺跡

「多い」 縄文晩期の複数の地層から、炉跡26カ所や土器・石器等6,800点程が出土

「貴重」 市内の縄文遺跡で唯一ヒ工属の種子発見

その他にも、炉跡周囲の土壌からサケ科等の魚骨片、チョウザメ科の鱗板片、動物(哺乳綱)の骨片、クルミ属の内果皮片等の生業や食生活に関する貴重な資料を発見



第5章 基本方針

1 整備の意義

丘珠縄文遺跡は、札幌の低地部を利用した狩猟・漁撈・採集等の季節的な生業活動が繰り返されることによって形成された遺跡と考えられ、縄文晩期から続縄文文化、擦文文化へと展開する**札幌低地における生業形態の原形を示し、縄文文化から続く札幌の歴史を示す象徴的な遺跡のひとつ**と評価されます。

この遺跡を活用して、**豊かな地形環境に適応していった札幌の縄文文化の魅力を発信し、「食文化」をはじめとする縄文文化を体感できる場を創出**します。

2 遺跡公園の位置付け

丘珠縄文遺跡を活かして札幌の縄文遺跡の魅力を発信する活用機能に特化した体験型の施設
主な利用者像：市民、市内外の小中学生（校外学習等）、観光客

3 遺跡公園のテーマ 『川辺に広がる札幌の縄文、その「食文化」をはじめとする縄文の体感』

4 整備の基本方針

方針1 札幌の縄文遺跡の魅力発信に向けた
丘珠縄文遺跡の整備

5 整備の方向性

方向性① 「札幌の縄文」を発信します
方向性② 縄文遺跡である丘珠縄文遺跡を適切に保存するとともに、遺跡の価値を継続的に探求・発信します

方針2 縄文文化の体験と学びの展開

方向性① 縄文文化を体験できる活動を展開します
方向性② 縄文文化の学びの導入としてガイダンス施設を設置します

方針3 市民との協働による遺跡の活用

方向性① 遺跡の整備と活用・運営を市民との協働で進めます
方向性② 地域に根ざした施設づくりを目指します

方針4 「学び」のネットワークづくりと
市民交流の場の創出

方向性① 「学び」のネットワークづくりを進めます
方向性② 市民交流の場を創出します

第6章 整備計画

整備の考え方

「市民が育てる
成長する遺跡公園」

市民の手による調査・研究・検討の積み重ねが、将来的に「札幌の縄文」や「縄文文化のたたまい」を感じられる空間の創出につながっていく。

▼遺跡の復元整備（遺跡復元展示施設の設置、地形復元、植生復元等）は、市民との協働による継続的な調査・研究の成果に基づき、長期的な視野に立ち検討を進めていく方針とします。

▼サッポロさとらんどと連携した活用・運営をとおして、教育・文化・観光資源として、さとらんど全体の魅力を高めていくことも目指しています。
⇒ サッポロさとらんど全体の空間利用との調和を図るとともに、さとらんど現在の機能や利便性を損なわないように、既存の園路・樹木・設備等を最大限活かした整備を進める方針とします。さらに、さとらんど既存施設の有効活用についても検討していく方針とします。

「調査・研究」、「展示・公開」、「体験活動」という3つの機能を展開

地下に眠る縄文の息吹にふれ、
縄文の暮らしを学び、体感する 『札幌の縄文の体感』



市民参加の発掘調査



展示解説

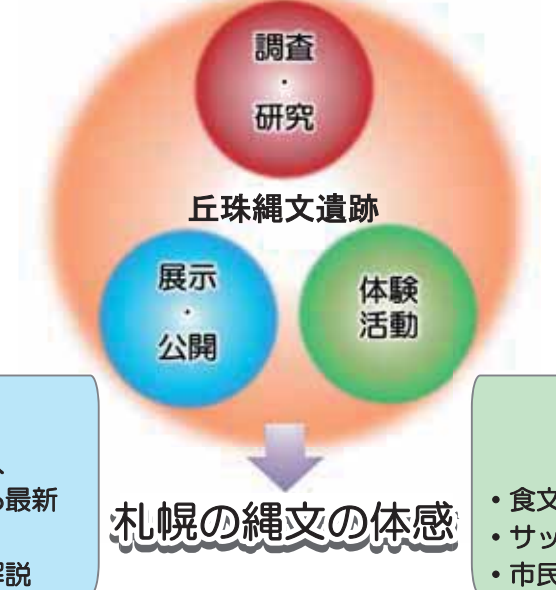
市民参加による
継続的な発掘調査
「地下をのぞき、遺跡を体感する」機会を広く市民に提供していくことにより、復元整備やレプリカ等の展示では伝えきれない「本物の魅力」を発信。



市民参加の発掘調査



土器づくり



展示機能の充実

- ・縄文文化の「学び」の導入
- ・継続的な調査・研究による最新成果の発信
- ・見学者を惹き付ける展示解説

体験活動
メニューの充実

- ・食文化をはじめとした縄文体験
- ・サッポロさとらんどとの連携
- ・市民と協働でのメニュー開発

ゾーニング ～4つのゾーンから構成～

①保存整備ゾーン

発掘調査ゾーン

市民参加による継続的な発掘調査を実施する空間、市民が多目的に利用できる空間として、現状の景観を活かしつつ、必要に応じて、地表面を整地するとともに、復旧しやすい芝張り整備を行う。

遺跡保全ゾーン

既存の盛土を活かし、遺跡を恒久的に保存するとともに、バッファゾーンと一体的に、既存の樹木を活かした緩衝帯として位置付ける。

②ガイダンス施設・体験施設ゾーン

ガイダンス施設ゾーン

体験学習機能を備えたガイダンス施設を整備する。

屋外体験学習ゾーン

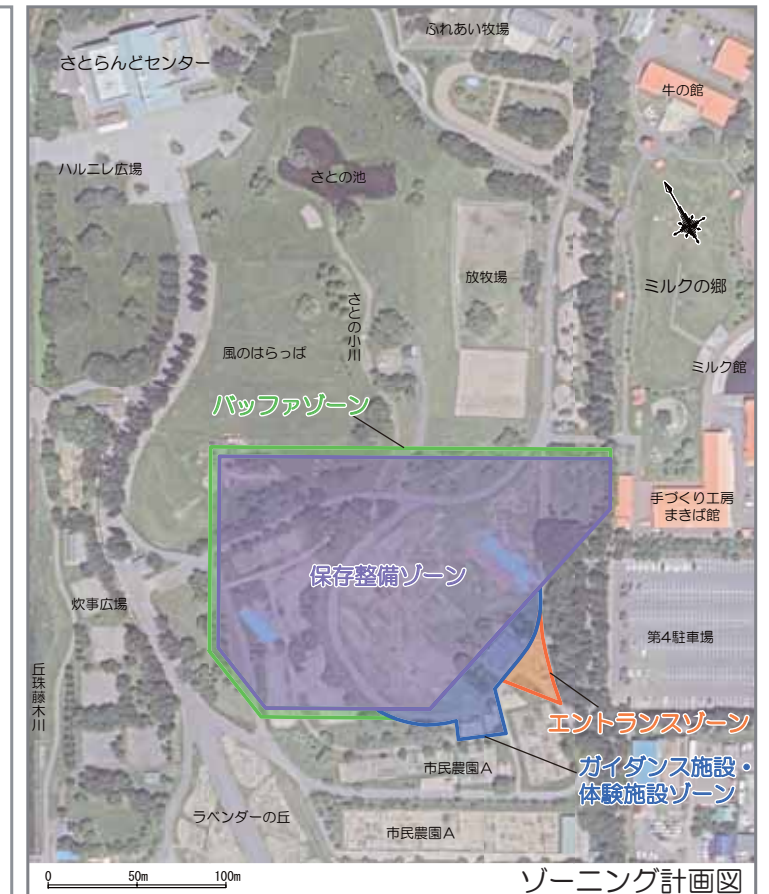
体験広場を整備（火おこし体験や土器の野焼きなど）

③エントランスゾーン

エントランス空間を演出する修景。案内サイン等を整備。

④バッファゾーン

遺跡を保護する緩衝帯として、可能な限り現状を維持。



ゾーニング計画図



整備対象面積約30,000㎡（バッファゾーン含む）
ゾーニング施設配置図

第6章 整備計画

調査研究

- 市民参加による継続的な発掘調査
- 市民参加による整理作業・研究活動
- 市民との協働による発掘調査成果の発信

体験活動

■ 縄文体験活動

- 食文化の体験
素材：サケ、ウグイ、チョウザメ、クルミ、ヒエなど
活動例：栽培体験、収穫体験、調理体験など
- 暮らしの体験
素材：炉跡、土器、石器、土製品、装飾品など
活動例：火おこし、土器づくり、石器づくりなど



火おこし体験



石器づくり体験

■ 調査体験活動

- 発掘調査の体験
発掘調査の見学、発掘調査の体験
- 整理作業の体験
整理作業の見学、遺物洗い体験、接合体験、拓本体験など



発掘調査の体験



土器の復元体験

管理・運営計画

- 市民ボランティアや地域の方々との密接な連携
- 学術的な研究成果に基づいた継続性
- 教育資源や観光資源としての活用
- ⇒ 行政が主体的に関わり、市民と連携した管理・運営体制を構築することが必要となります。
- ⇒ 行政は、市民ボランティアや地域の方々を恒常的に支援していくとともに、市民から市民に発展的に活動が継承されていく体制の円滑な組織化をサポートしていきます。

多様な市民ニーズにより効果的・効率的に対応
⇒ 民間の自由な発想・能力を活用していくことが求められている
⇒ 施設の管理・運営に、**指定管理者制度の導入**を検討

◎ サッポロさとらんどとの一体的な管理運営など、できる限りコストを抑えた管理運営のあり方についても、検討していきます。

ガイダンス施設

■ 位置付け

調査・研究により得られた最新の成果を常に展示と体験活動に活かし、地下に眠る遺跡を直接感じることができる場所で、遺跡のガイダンスと体験活動を一つのセットとして展開していくことが、丘珠縄文遺跡に対する深い理解と縄文文化の効果的な学びに繋がっていく

市民ボランティアが発掘調査と整理作業・研究活動を継続し、また、遺跡公園を訪れた方が、丘珠縄文遺跡の発掘調査の成果を見学し、縄文の暮らしを学び・体験できる施設を、遺跡を臨む空間に整備する

■ 機能

ガイダンス施設は、下記の6つの機能を有する施設を想定します。なお、一部の機能については、サッポロさとらんど内の既存施設の有効活用を念頭に検討していきます。

- | | |
|--------------|------------|
| 1) 展示・情報発信機能 | 2) 体験学習機能 |
| 3) 整理・研究機能 | 4) 管理・運営機能 |
| 5) 収蔵・保管機能 | 6) 便益機能 |

■ 規模

ガイダンス施設については、サッポロさとらんど内の既存施設の有効活用や多目的な空間利用など、費用対効果を考慮し、必要な規模を検討していきます。

■ 構造

文化財の展示・収蔵・保管施設として、耐火性・耐震性を有する構造と適切な防火設備・防犯設備の設置が求められます。

公開・活用計画

■ 公開方法

- 開園日・開園時間：さとらんどに準じる
- 利用料金：ガイダンス施設入館無料、体験活動有料

■ 活用計画

- ガイダンス施設を学びの導入とし、札幌の縄文文化と丘珠縄文遺跡を発信
- 市民参加の継続的な発掘調査をとおして、「地下をのぞき、遺跡を体感する」機会を提供し、「本物の魅力」を広く市民に伝えていく
- 学校教育と連携した小中学校の校外学習としての活用
実物にふれ、体験を行うことによって、縄文文化の知恵や技術に気づき、現代の暮らしと縄文文化を比較することができるようなプログラムを検討。
- 観光資源としての活用
例えば、体験型の観光ツアーなど、観光客の集客に向けた取組を、サッポロさとらんどと連携し検討。

※活用においては、利用者の中から市民ボランティアとして、丘珠縄文遺跡の継続的な調査・研究や体験活動に主体的に取り組んでいく人材が育成できるような取組についても検討。

活用計画（参考）

項目	内容	対象※			
		ボランティア	市民	小中学生団体	観光客
ガイダンス	札幌の縄文文化と丘珠縄文遺跡の発信 施設情報・イベント情報等の発信	◎	●	●	●
発掘調査	市民参加による継続的な発掘調査 遺跡見学会などイベントの開催	◎	●	●	●
整理作業	遺物の基礎整理 調査情報の基礎整理	◎	●		
研究活動	ボランティア研修会、学習会の開催 講座、講演会の開催	●	●	●	●
縄文体験活動	食文化の体験 暮らしの体験	◎	●	●	●
調査体験活動	発掘調査の体験 整理作業の体験、バックヤードツアー	◎	●	●	●
活動成果の発信	学習・研究成果の発表 展示の更新、企画展の開催	◎	●	●	●

※「対象」欄の「◎」は、ガイドや発表者としての参加を意味する。

⇒ サッポロさとらんど内にある施設として、全体の魅力を高めていくことにより、年間およそ60,000人の方々が遺跡公園を訪れることを想定。



展示見学



遺跡見学会



土器づくり

第7章 事業スケジュール

平成26年度 基本計画の検討

平成27～29年度 公開・活用及び管理・運営に関する検討、基本・実施設計、施設建築等

平成30年度 オープン予定